

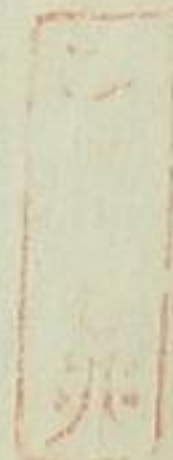
龍門隨筆

卷五

特別
イ4
696
207









19  
696  
207

目藥之傳

一 龍腦

志つとや肝熱と云目方病用之中と血と  
よく去て光とあさやます目の中と涼くすま  
る龍腦一症れりきとなど一と流きりてけり茶  
性かん也外障はこる一

一 志が 目と座しけ座のほと流一痛とを熱の

目にはころ一 茶性温也

一 明礬 目の赤はみみおほよ吉座のほと流一熱と

熱とさうすおほよ吉座のほと流一熱と

一 ちし志や かしけい今に成りいほと熱と熱一





寒熱を治し痛を治し痰を止めしむるに

一 赤ん毛 血を散らし痰を治し一月をわけるに  
この薬性平し

一 荏子 温しは痛を治し痰を治し薬性温也

一 明石 世に此根の根の丸をわけるに  
根の丸をわけるに世に此根を腫  
しむるに

一 荏貝 荏の印がとを治しあは入ててしむるに  
目とるに痛を治し薬性温也

一 白丁香 荏の立文に血を治し目とる

はつらつと血を治しあは入ててしむるに  
赤ん毛と赤ん毛を治しあは入ててしむるに

一 貝石 水に煮てしむるに  
はつらつと血を治しあは入ててしむるに

赤ん毛の血を治しあは入ててしむるに

一 光明丹 赤い温白の血を治しあは入ててしむるに  
去悪血と去れしむるに

一 黄丹 一切の月を治しあは入ててしむるに  
研てすしむるに

一 けつ石 蛇の貝の血を治しあは入ててしむるに



焼くはく瘡をおし目をはくはくはく血とを  
障とよくしは平し

一龍骨 酒に一盃浸しあがり七毫めくあめを

底障し用時を酒はほろす寒く肉と好す

一龍石 白くなる絶やまこしはくはく目底目と吉

うつきとぬき性平し

一ころん モクツシニテヲロシテワカクソコニサイジヤウニニケヲヨシキル 灰し瘡患服しあめ物と吉切けく吉

一かう石 外障し吉ほよくはくはくなるは焼て

つよふきまき

一ころん石 その外はくはく目のなるはくはくはくはく

お月に吉血と吉 コシヤク

一たいしや石 土作はくはく童子の餅のむし

お月し吉底障し吉薬性温なり

一白竜 いれかすんかめく焼也黒服しあめお

に吉目とぬき星目方に吉平し

一ろかん石 二時はく焼はくと切中服とぬし星外

障血と吉なり

一菊名石 焼てはく血と吉薬性平しまはくはく

はくはくはくはくはくはく

一ろん石 少量しおの血と吉まはくと切しはくはく







白濁のしるしをいふに——  
切らまはすと云

一 地骨 痛を去るものなり——  
久おやくまると切痛を去るものなり

一 志や水石 外障を去るものなり——  
高有と平は切らまはすと云

一 麒麟血 日中であけられた血をけし唐の木の  
葉を干し松脂をのりて木を流わがくたうり  
研粉めしてけし

一 天南星 外障を去るものなり——  
研粉めしてけし

うみあつと云ふ

一 くんりく 目のやぶるものなり——  
薬性平也

一 白粉 上製下製と云ふは実之有毒 一女紅黒  
いも目より入るし

一 天花粉 かきくはれ粉の事なり——  
肉のかねと云ふは痛を去るものなり

一 志ん石 かほ石の事なり——  
以上四十一葉也



一 目薬点す之事

△ 神通散 外障散共云

滑石 芦花石 各五分 石膏 二分 黄连 五分

右之四種ヲ袋ニ入水ニ漬入テ炙シ至半時カスル  
去テ板白芷 下 煙粉 下 檉葉 下

右三種ヲ煎シ汁ニ合一夜ヨイテ取上テ目ニ入

欠上ニ添テヘラニテニセカヘシカ分ス能ク摺テ点得

△ 竜腦膏 寒水石 芦花石 生腦

竜腦 朱 右蜜練リ

△ 竜正散 寒水石 白石 石膏 明石

滑石 白竜 角石 竜腦 麝香 丹

右摺テサス

△ 石交明子膏 炉耳 生腦 角石 牡蠣

蛇骨 竜腦 虎膽 真珠 丹 之ニ熊膽

麝香 右蜜子リ

一 目ノウツキヲ留ル藥

明石 真珠 竜腦 麝香 右摺テサス

一 星ナリ茶

角石 煙粉 鳥卵 口傳

一 傾目茶



銅青 石膏 塩漬各少

一七 有楚名大 銅青大 怪粉 膽礬名

イカニモ少水ニテスリタテ外ニ付ル

一茶サシ採ノ事

練茶ニ度粉茶ニ度一日六度サスベシ三日

ワケテサシテ四日月ハ茶ヲサス一日月ヲ休ヘシ

アツリニワツラフ目ハ九度モ点事アリ

一内薬之事

△浮肝湯 石更明 大黃 石更 草更明

荊芥各五分 羌活 山挽子 青箱子 各五分

木賊 赤茶 各五分 右食後 煎服ス ヲヨソ

痛ハ一日五六度可用也 凡月ニハ草更明

ヲ益一眼カシラ赤ハ一石更明ヲ益 一外障アラ

本賊ヲ益一黒眼血アラテ濁ハ石更ヲ益

一小兒疳目ニハ大黃ヲ去テ青箱子ヲ益

△補肝湯 熟地黄 菊花 細辛 各五分

栝子仁 防風 各五分 柴胡 五分 芍药 五分

耳草少 一頭痛ハ細辛ヲ益 一月血アラハ

菊花ヲ益一黒物目ニハ地黄ヲ益

青キモノ見ハ細辛ヲ益 赤キ物ニハ栝子仁ヲ益



一内障之内藥

川芎 當歸 芍藥 防風 香附子 枳殼

白朮 地骨皮 右等方 耳聾少

右生薑三片奉一入煎服ス

△四物湯 血目ヨシ 地黄 當歸 川芎

芍藥 各等方 頭痛ハ 香附子 独活 白芷

黃芩ヲ加 内障ノ類ハ 牡丹 山茱萸 茯神

秦皮ヲ加 各等方

△三黃圓 目下シ 大黃 黃芩 黃連

右持ノ丸ノ廿粒計一日ニ三度ニ與之

血アカリ 目赤筋多ク 露ホウ 蓮葉

右藥ヲ洗則ヨシ内藥ヲモ可用之

一灸所之事

肝俞 風門 膈上 合谷 上星 後頂

翳風 陶道 目瘡 灸口傳

小兒ノ疳 目ヲ見スハ合谷 小兒蒼目

ニハ手ノ指横文ノカシラニ灸ス

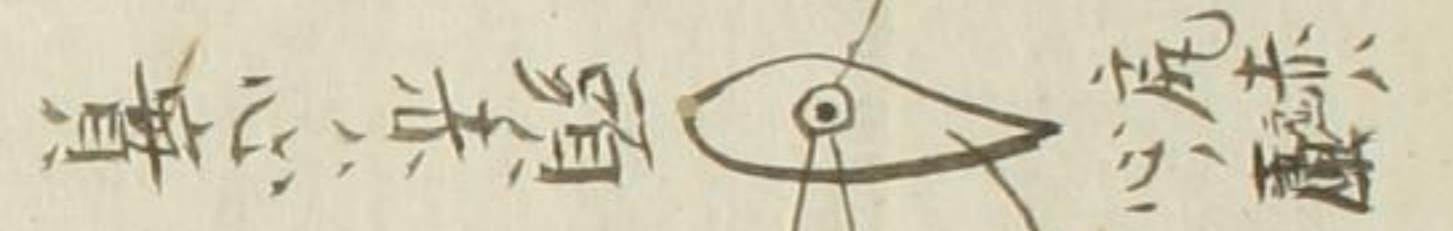
一可禁條

一糕 二酒 三湯 四力 五音 六行

七煙 遠物ニルニモ 八風 九白 十細 以上



本丸推春  
肝筋精  
心推夏  
血精赤



脾内精 土土推古用不灸

腎骨 瞳子也

肺氣精 白眼

金三推 秋不灸

△竜膽圓 龍膽 孰地黄 生地黄 各羊介  
杏仁 防風 枳殼 牛膝 各交 牛黃 一文目  
右蜜煉 ● 是介とありて一月ニ五皮百日

香へし其間スサケ萬温ナル物ヲ禁スへし

△合種散 水樂 三十文 ンキモノ每集 三十集

梅テナ トウシ ンキリ ウワキ 一東ニキリ

右五種土忌ニ入上塩ヲサシニツホトモテ

スヲヒタルホト入ロツハリフサキ 益ハ日ニアテ

廿日計ヲケハ青キシルル付へし無上ノ業ニ

一目薬拵様

蜜十五 梅仁六十 無クハ梅テニツ計能洗入合木

ノホツ入湯子リ也本ノ蜜程ニ子ル也練ニテコヌ

ロカン石 炭火ニテ一時焼テ蓮ヲキサニコクノ



剪ノ汁ニヒタシテ天目入ホウシ目性粥ヨキ煮茶ニモ  
是モ八度メハ蓮叶上香ハナク焼ヲ入

寒水石 ヲヨキ炭火ニテハシリヤム程焼テ熱湯ニテ  
二三度洗流ホウノ男女トウベン入一夜ヒタス亦  
去惡入白ヤム程イル其後又ル湯ニテ二三度洗流  
又ホウノ紙五重六重ニ包テ土中ニ一夜置モククキ  
ヲキカキニテホウス

クワ石 先刻テ黒ツナル程ヤシテ水ニテ二度  
洗流

生腦 七度焼テ竜腦ノクイメ

真珠玉 大小三色ニエリ分カキニハハシメテ  
細カメ去惡入ハシ淡ノ立ヤム程ニル明カンヨ去テ  
又ル湯、ホウノスル真珠中成ハシモ中真大ニハ  
明ハシモアラクメ入ル湯入事何レモ同

朱 其マ入

ホレイ 二三斗モ雨露ニサラシ黒ハメヲ去リ  
能焼テ又ル湯ニ細ク洗又焼テアサシラケノ汁ヲ  
カク石 角先一寸焼テスリククキウスノリニテ



凡白成糸ト燒テ水ニテ洗ホウメハゴノ汁ニテ  
一夜ワケテ上スミヨステ又ホウメ也

ウツク

雨露ニサレシモ候少イリテワケヒ又

如石サレタルヲ若クモカラノアリニテ二洗三洗ニテ  
テ水ニテ一度洗流モ又如石サレタルヲ水ニテ  
百度モスリイサスルヲ白毫ト云

のハシ 去息ニ入ニタテ、洗ハシヤム程ニテ水ニテ

ニ三度モ洗流ツカフヲ白ハシト云モ候モハシ石ト云

△上ヒ星ニカケ茶

白毫散 ホレイ ウツク 蛇骨 カク石

中水石 各秀 散茶也ノキカスル星ニハ虎丹ヲ  
二十分一入加

△月内茶 四物ホニ 兵 香白子 脉実

ニハ黄芩 大黃 山シ、脉虚ニハ 人シシ

フシシ 白朮 アフキ 肉桂 風引ハヨリ

是有ニハ 柴胡 香附子 陈皮 後下ルニハ

大自 木耆 暖結スルニハ 大黃 枳仁 小便

結ルニハ フソレウ 本通 車前子 虫積ニハ

豆ル 本香 カシワ 三稜 虫子ツスルニハ

黃連 兵子 瓜痛ニハ カウホシ



△明星散

ヤミ目ハ女カ子ニテトク

ツキ目ハ男女ノ乳ニテトク是ヲ大明香ト云

明星散大ぬ者ハ明星香ノ三種ヲ去テ三珠

射香 ロカン石モ能煖タルヲ入ルツカレ丸目ニ用

△快糸元子 野向ノ安方

大ニヤ石ニ取 赤名子日 パシ仁日ヌル湯入

巴<sup>内</sup>油湯ホレイニ加 二月ヨリ八月迄九ヨリ正

此<sup>ニ</sup>本<sup>ニ</sup>差 右何也ニ細カニソ八月寸ノ丸モ

キブキニスリタテ一夜五也上スミヲステハ

之目ノ口紙ツハリ日ニテ付テワセ糸ノ食

之ツホノメヲカキテ湯ニ入テ能カンニ丸 ヤセヒタル

六ハ夏ノヲ用コツヨキ人病ニハ冬ノヲ用年

ノ数一リウ増丸ナカラヌル湯ニテ用

△禁物 川魚油氣餅青<sup>キ</sup>物草<sup>キ</sup>味<sup>キ</sup>嚼

塩<sup>コ</sup>キ物 鳥類一日ノム也

用テ後ヒル<sup>一</sup>ナカレ白<sup>二</sup>茶<sup>二</sup>日<sup>五</sup>モ用<sup>テ</sup>後<sup>ニ</sup>黄

丸百<sup>中</sup>加<sup>等</sup>方<sup>・</sup>丸一日ニ三度七日用イモハシ方

カンハフ後<sup>ル</sup>カ<sup>ニ</sup>吉

△龍膽膏月<sup>ノ</sup>サレ茶 山田<sup>ノ</sup>分<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>生

滑石 石膏日 生肌 朱 竜胆 辰砂ノ



麝香 各ホ方

ヒニ

皮玄等方ヨリ

白キ為ヤウノ

皮ヲ去テ中ノマキハヲ去定テ用也 蜜ニテ

膏ル 粟粒程柳ノ柳枝ニテサスノ 地平散

三度<sup>此等三度</sup>一日<sup>此等三度</sup>合テ六度ヲ可指 毎日濃血ノ

出ヤムホトサス也

△地平散

真珠

ヒンセウ

竜腦

麝丹 寧水石

石膏

葛粉

各等方

能スリテ 龍丹膏日トタカイニ三度施一指

膿タリ山溪ガリセハ 澄茶 蓬砂散

玄珠 鳳砂 麝 竜腦 虎肉 芒硝

明心 滑石 生肌 角石 ホレイ 寧水石

粉ニシテ合膿出山溪計ハラウトおんトキ

サスナリ 又日クナリ茶ヲ指テ流目ハタ

辰砂 芒硝 明心 石膏 各等方ノ合サレタレ

付也 右クナレ茶ハ血多ク黒眼入年月ヲ経テ不見

ニモ吉其後ハ大明膏ヲサス

△黒煙散 ヲマヒ黒花ニ吉目ニ毒ホコリ入タルニ

砂ナリ毒ケレナリ 辰砂ニ及 石波明子 三及

地ノ臭ノワメモナセヤキテ融ビタシ一夜ヒタシユリテ

白丁香ニ及 荏ノ上ニテノ白キ刑ヲ蛤ノ貝ニ入紙包



スラノ一日一夜火庭入焼 麴<sub>五</sub> 其德 竜腦<sub>一及</sub>  
 其价ハヤ<sub>五</sub> 蛤粉<sub>一及但</sub> 右散茶<sub>三ノサス</sub>  
 △五明水 高珠<sub>一太ト也</sub> ヒテウカ<sub>上ノ半方入</sub>  
 柘榴皮<sub>實共ニヒテウカ程入</sub> 灯心<sub>日</sub> 明<sub>日</sub> 丹<sub>ハシ</sub> 目<sub>ヨル</sub>  
 以上七種天目水一盃入テ煮出シ一日一夜ヨイテ能  
 縮ニテコレ病目血ノ多目ニ専用也 灯心ハ手一束ニ  
 ヨリ合其ニテ目ノ中ニホリ入也  
 石没明石トハ 蛇ノカラノワタ拵可也  
 石明石トハ 蛇ノワタトトリハサキ也  
 艾明子トハ シノミスハ 蛇ノヘリヲモ

草艾明子トハ 批サ<sub>ラ</sub>ニセ上ニ田サイナシト云  
 真間鳥ハ 批衙門尉ニ永石<sub>石</sub>字  
 元和二辰十月十七日

目薬之能毒

一麝香 鹿ヲス<sub>マシ</sub> 靱ヲ去ウ<sub>ツ</sub>キヲ留<sub>處</sub>ニヒカ<sub>ハ</sub>血ヲヨ<sub>リ</sub>  
 潤ス<sub>温</sub>也 冷タル目ニ言<sub>シ</sub>ツ<sub>ツ</sub>ヤルソコヒヲス<sub>マ</sub>ス  
 一白竜 イカノ甲也 虎丹ノ如味ハイ<sub>ツ</sub>以也 ヨ<sub>ハ</sub>キ目黒眼ニ  
 出<sub>來</sub>物ヲ散<sub>血</sub>ヲ去  
 一口カン石 ヲ<sub>一</sub>マケ<sub>ヲ</sub>切<sub>サ</sub>ス<sub>マ</sub>ス 晴惡血ヲ去 燒黃連之



汁ニテケス黄連ヲユリ煎メヒメシ天目ニ入メキカハカス也  
ニ立湯ニテ水ニスニ時ヤツ粉ノ水ニ痛ヲヤメウハヒク  
切廬ヲ強スル光ヲ出スマケツ切

一セウノウ 中外ニシ中ノ段ヲ晴フケノメレニ言龍胆ノ  
代ヲスルセマウケニ言 天目入亦天目ヲ蓋メ合メヲ紙ニテ  
ヨク張コトノ上ニ置焼也折返シタ四廿度焼ヘシニヨリヨスス  
マケツ切白眼ノ肉ノ出ヲ去マハキヲ止ススレケケヲホス目  
氣カヲ強クス

一寧水石 白眼ノ血ヲ拵大カニ熱去思蓋ノイル水ニ  
焼生ニテモセフ一モ有風痛目ニ言セイヲ強クスウ目

ソユニケニモ吉一時ヤツ

一石膏 目フナノホキヲ去ウキ強ニ吉上血去水ニ去思ニ  
入蓋ヲメ焼スルヒメを熱ヲ去肉ヲ去目ニヒルヲイヤス風ニアツテ  
汲スルヲ面ル一時ヤツ

一エニセウ 血ヲ去マケツ切ハミヲ入ラス應ウキヲ去上ヒヲ  
退クル也シムヒヤス萬葉ノ痛有而ニナヒク熱也ヤキリウ  
ノウ共云

一真珠 熱血ヲ散應ノ濁ヲスス水ヒイルガ其マ  
水ニ 天目ニ入シリノク程ヤツウハヒソコヒニ去光ヲモウ  
定熱共ニ言ソコヒノウ目ニハム







一ツワ石 甄キノ目ニウワヒニ吉ヨシヤクノ一ツワ石焼イリ  
ヤキ吉ソムシヲ止ムカクツヲ潤ス白眼ノ痛ヲヤルソユケニハ  
一茶モ用之三時ヤクナリ

一虎丹 上ヒニ用處ヲ晴ス

一防レイ 久病吉血ノ痛ヲ止メ星上ヒ月熱血ノ痛ヲ止メシ

ノケタルレニ處スニヤカスル物ヲ去ル焼スイヒ水ニ三升付キ

一ツワ石<sup>砥ニテスシノサレタルモ</sup>ニツワ石ニテ火ニ焼ヤキサレ水ニモ廿日計サラス

上ヒニ吉 イカノ甲タルレニ吉星ヲ去ウソノカウヒマ

一蛇骨 干上ヒ病目ニ痛ヲ去ル末おテ散血ノ痛目吉

知メノ郡ニアリ

一石生 甄キ久病ニヒリ目ヲ明ル能焼用

一ロウ石 血ヲ去シ目ノ内ヲ涼ク上ヒシウキニカラスウリキ<sup>水ヒ</sup>

一カイ石<sup>ハイ石カ</sup> お目上ヒ處ヲシ溜ヲスニシ能ヤキハツリ石也

一メイヤ石 童ノ病目處ニ吉

一カク石 上ヒ星メ目ノ痛ヲ留切ロモお末おニ處ヲモ去

麻ノ角サキヲ能ク白ク焼シ水ヒ

一白石 袋ノ角 上ヒツカフ タウノ也ニツクイヤスお目ニ吉

一南石 上ヒ去ル病ヲ星又シノ付ヲ去何ニモセ

一ユウ丹 一ツワ切ヤシメウツキ目何ニモ吉能ノイカニヨシ

其伝ツカフスニサナリ



一トナ 忍無ヲ教履ヲ晴ウキヲ云

一カケ茶 晒石ヲ能焼カケル妙

一何レノ目茶ニ加テ吉 仁仁ヲキシホリテニヲ取テ入テ一夜モ

ニ夜モ水ヒノモ何モ如キ

一月ニ忍おかしニ ヤウハイニ五 晒シガ在サス

一二月ノ茶 梅テヲ能スニテヒメシ七日を以て耳肉ヲ

取テ子ヤノ後一文宛ニウスくとヌリテ重テ七日を以て青ク成

テ取テ梅テヲコラケテ貝ニ入テ・神丸乳ニテトキ目ス

サス何レノ目ニモト

一星ニ髪ノ底ニ有 麝香 白粉ガカケル

一月ノナリノキ入タルニ名荷ノ根ニホリ目入

一月洗茶 茶ノ木焼塩湯ニテアクニメシ食梳ニワニ晒

ハシ一方入テ洗

一月洗茶 カラシノ葉ヲモシ一夜ニテコシ人ノハニ付ル

カ子等方合等ノヘニ少入ニ油以サス妙 親世一夜茶云

一ヤニ目藥 晒シガ付ルカ子ヲ鳥ノ羽ニテワキ以テ

ヒメト抄粉ニノ乳ニテトキ子サニ目廻付ル少目入

一月洗茶 晒シ 石生根 搗ノ系キワメニテモ

黄連ニテモ

一ハ目 明シ 辰破ガ乳ニテヌル











木香五ノ 右醋糊ニテ丸スル 角藏ニ同

同服 廉角ノ糸ヲサシテ水ニテ一服キト色ヲ合シ云ハ湯

ヲモキハケレシカラク五ツ泥ヲ煮メ

一氣ヲ煉リ乳ヲ桂金川散 其ニヒカハリモ  
不入ニ至ル日ノハ 春雪

黄芩一五 芫連一五 大黄一五下川芩一五 人一五下ト

耳朱辟ケイシニ来丁 一朱半

右キサレ何モ茶一服水五目一ツ木入一ツ之矣

同 蛇骨カクニヒサエ白ヲ  
カカルツナシ ヲル五ハ汁ニテトク為羽ニテ

付ニ度ヲ福モ度シ付ル

同洗薬 石生管スイカワク ヲル五ハ一エモキ木本カツ

アフハコ 抄アカミ 白粉カス

禁物 油氣酒インハウ生奥耳糸新川質于色也

一無憂散 黄蓍 木通 素白皮沅皮木香

胡椒 各半兩カシイム 牽牛子一五上クヲ取粉ス

シテ右六ハト膏方合テ一服ニ又同ノヲモサシメ吞汁ハ

生姜十二片大目水五盞半方入一盞ニ二三度清潔ナル夜ノ

曉星ヲ移テ右茶一服不スニ扱フ生子或ハ宵ニ右茶ヲ

煎汁ニテコ子テモテモ吉蛤ニホト有物也右ノ吞汁ニ煎

先ヲ外ニテ星ヲ移テ吞也水血モ吉子心クルニシ

ルミアリ口傳スシ 右誤モ他人ノ不可有口外ニ ニ知ル ツル時也

天保十八年七月七日



一巨勝子 奇效良方廿一卷 虛損門

神仙巨勝子丸

安魂定魄 改易容顏 通神仙 延壽命 添髓駐精神 虛益氣壯筋骨 潤肌膚 髮白再黑 齒落更生 目視有光 心力無倦 行步如飛 寒暑不侵 能除百病

巨勝子 一五斤 胡也 酒浸九蒸九暴 焙

生地黄 酒浸 切 乾地 同上 酒浸 意 何首烏 各四 五 酒浸 焙

枸杞子 炒 破故紙 酒浸 兔絲子 酒浸 三度 蒸 不 玄 熱 先

烏味子 炒 忌 酸棗仁 炒 廣木香 忌 雞頭實 水 子 宜

蓮花 礞石 火 巴戟 酒浸 去 心 肉蓯蓉 楮實子 去 氣 洗 炒

茯苓 遊子 炒 天雄 天門冬 忌 鐵 官桂 人參 焙

蓮肉 酒浸 刀 切 川續斷 洗 焙 山藥 洗 焙

各兩 已上 廿七 味 右為 細末 春夏 煉蜜 為 丸

秋冬 蒸棗 肉入 胡桃肉 二十 筒 搗 如 泥 同 茶

末 和 更 搗 十 餘 杵 丸 如 梧 桐 子 大 每 服 三 九 宜 心 用 溫

酒 送 下 煖 湯 並 可 日 二 服 如 久 服 去 天 雄 用 鹿 茸 亦 得

耳 聾 復 聰 昏 再 明 眼 一 日 光 脈 強 勝 六 十 日

髮 白 奕 黑 一 百 日 容 顏 改 更 同 明 可 黑 髮 穿 鍼

冬 月 單 衣 不 寒 若 將 白 鷄 用 菜 祥 飯 喂 六 十 日

則 變 為 黑 鷄 矣 意 宜 加 減 去 天 雄 加 菝 蓂 子 炒





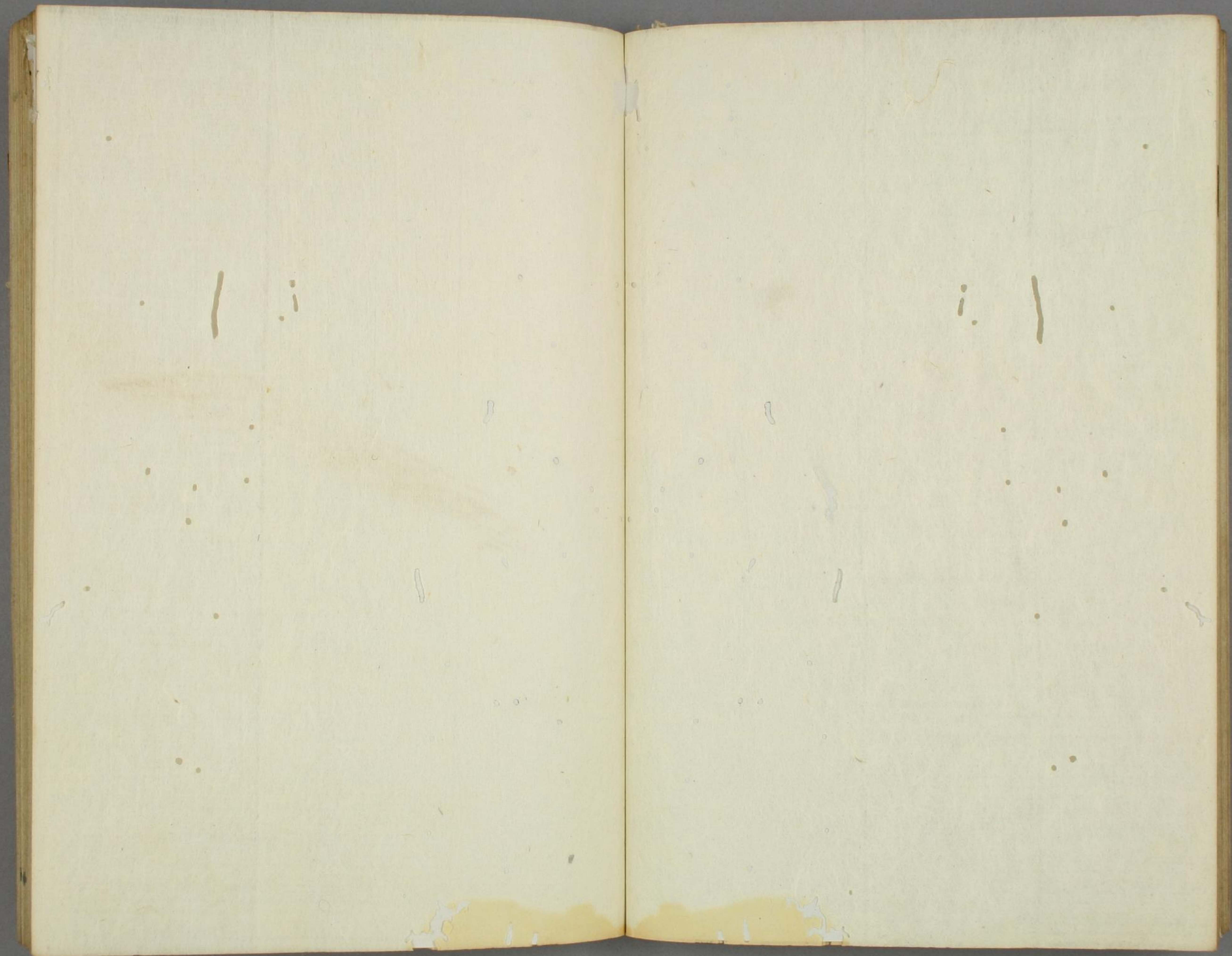




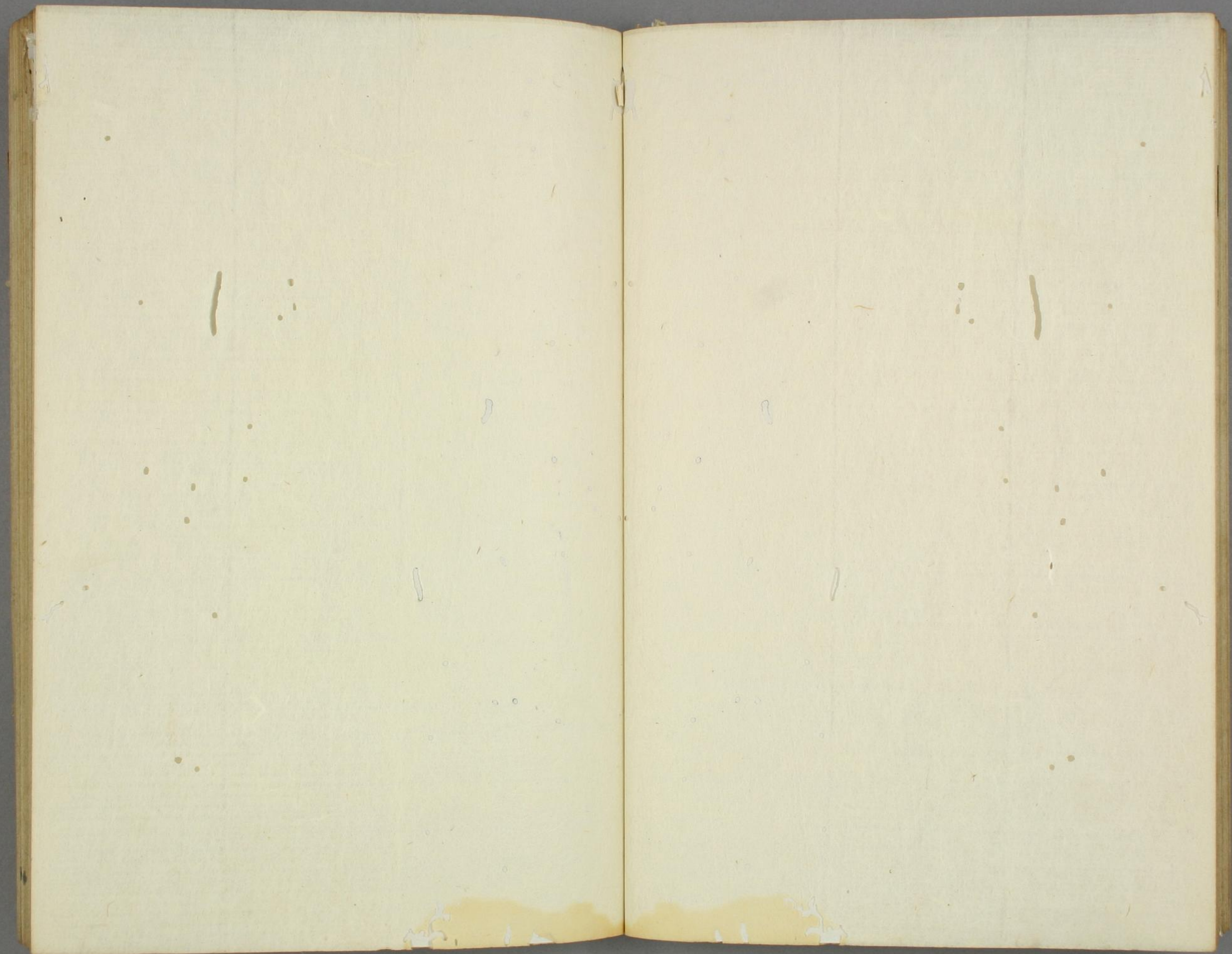














一隸書興於周代事

世人多以隸書始於秦時程邈者非也隸書之興於周代何以知之按左傳史趙筭終懸人年曰亥有二首六身是其物也士文伯曰然則二萬六千六百有六旬也蓋以亥字之形似布算之狀按古文亥作元全無其狀雖春秋之時文字體別而言亥字有二首六身則是今之亥字下其首之二畫豎置其身傍亥作𠄎則二萬六千六百之數也據此亥之文則春秋之時有隸書矣又酈善長水經註云臨淄人有發冢者得銅棺棺外隱起為文言齊桓公六代孫胡公之棺也惟三字古文餘同今書此胡公又



在春秋之前即隸書興於周代明矣當時未全行猶興古文相參自秦程邈已來乃廢古文全行隸體故程邈等擅其名非創造也

一 寬文元正月十日午上刻禁中火上ノ書付字

禁裏 新院 仙洞 女院

清風河邊ノ燒中ノ以

二條後 九條後若所 小の方女中ノ燒中ノ以  
唐橋後 九條後大岡河 曹司後  
日大岡河 苑山後 西園寺後  
高松後 苑山後 清田寺後

八條後道中燒中ノ以 近出後唐門ノ燒中ノ以

難波後 極三條後 聖本町後

二階町後 禁中車方ノ燒中ノ以

女院下尾後板橋志ノ圓心也ノ燒中ノ以

河原寺正圓心下尾後燒中ノ以

常照院後 寺所通百萬遍之寺ノ以

志如寺新中ノ燒中ノ以

今市川寺町ノ燒中ノ以

一 禁中火上ノ書付字  
後 禁中火上ノ書付字 一條後依尾後 為丸後  
新條寺後、 菊亭後、 日新後



仙洞、南御門、前、下、御、院、山、寺、  
 野山、丹、坊、寺、山、田、切、寺、法、寺、中、川、彈、正、少、松、下  
 紀、伊、守、寺、山、寺、法、寺、山、寺、  
 今、右、川、山、寺、法、寺、山、寺、  
 同日、雨、之、下、別、燒、あり、  
 行、幸、 仁和寺 御幸 吉田  
 宮、様、の、  
 望

一、貞享元年甲子十二月 日光お火、  
 尚、十六日、亥、刻、日光、山、火、所、家、少、燒、矣、  
 日、廿、九、日、朝、山、火、所、門、之、内、寺、之、藏、前、徒、中、七、新

町家、一、軒、山、寺、法、寺、

御宮、山、御、殿、法、寺、 日、増、寺、山、寺、

唯、心、院、 南、照、院、 淨、土、院、

貞、教、院、 觀、音、院、 光、持、院、

安、孫、院、 法、心、院、 妙、法、院、

中、之、社、 星、文、 日、別、不、一、文、 山、藤、所、

中、之、拜、殿、 三、宝、院、 聖、雲、寺、

町、山、寺、法、寺、之、中、山、寺、法、寺、  
 町、山、寺、法、寺、之、中、山、寺、法、寺、

町、山、寺、法、寺、之、中、山、寺、法、寺、  
 町、山、寺、法、寺、之、中、山、寺、法、寺、

町、山、寺、法、寺、

町、山、寺、法、寺、之、中、山、寺、法、寺、  
 町、山、寺、法、寺、之、中、山、寺、法、寺、  
 町、山、寺、法、寺、之、中、山、寺、法、寺、  
 町、山、寺、法、寺、之、中、山、寺、法、寺、







三皇五帝夏高周  
吳魏晉終南北宋  
大明阜立乾坤曉  
四海八方咸納慶

戰國歸秦及漢劉  
隋唐五代宋元休  
洪武開來日月秋  
黎民千石誦皇猷

一歷代帝王歌

伏羲神農興黃帝  
少昊顓頊及高辛  
夏高周號曰三代  
惟有三世亂秦氏  
東漢誅莽復中興  
西晉承魏都洛陽

是謂三皇嘗奉天地  
兼以唐虞號五帝  
戰國七雄侯十二  
西漢後為莽篡位  
三國鼎分蜀魏吳  
北魏後魏東西魏

北齊後周同一隅  
李唐之後有五代  
繼周者宋天下平  
元滅胡金取宋繼  
自堯迄元幾春秋  
神王神器已有歸  
隋帝興今乃揚氏  
梁唐晉漢周相繼  
迨宋南遷是胡金  
南北混一九十歲  
三千七百二十四  
大明梅統萬之世

一天如二卷 亥年正月九日 卒子山 庶務 竟

如雲書 抄師 友

男 庶務

巾 烟 友 抄 友

巾 友 友 抄 友 日 抄 友

男 庶務

竹 獨 河 抄 友

男 庶務 一 星 抄 八十 節



男麻一	了清之丞	男麻一	吉田八郎
男麻二	沼井之丞	男麻二	吉田之丞
男麻二	石巻村長	女麻一	堀村之丞
女麻一	新倉之丞	男麻一	長谷川之丞
女麻一	如安之丞	女麻一	原之丞
男麻一	曲原之丞	男麻一	坊名之丞
女麻一	若宮之丞	男麻一	山中之丞
女麻一	井上之丞	女麻一	久之丞
男麻一	今人所長	女麻二	久之丞
男麻一	津尾之丞	女麻二	宇津之丞
女麻一	吉本之丞	女麻二	長谷川之丞

女麻一	三宅之丞	女麻一	那村之丞
女麻一	吉田之丞	男麻一	石山之丞
男麻二	河井之丞	男麻一	近松之丞
女麻一	奥田之丞	女麻一	赤井之丞
女麻一	午田之丞	日	高井之丞
日	悪田之丞	日	志村之丞
日	吉田之丞	日	志村之丞
日	山崎之丞	日	廣之丞
麻十一	吉田之丞	麻十一	吉田之丞
日	吉田之丞	日	吉田之丞







如経宣とほく端てお首に指と申す也  
葬日之事は日之曆之に（此の日の）忌日（忌日）  
神まよしつ時申す 尚のまはれれと申す  
する指とくぬくす時にお香とたきかしのせし  
うぬ香の沈のひまこ也  
暮のはき指かほりあらはして水の不入念と入  
はくし言サと人らも二つ申す申す也

祀之次第

膳は足おめてもるま申す也  
こきい 茶碗申すもかきつけ申す也  
膳は常のこきい申す也

酒と備へ湯は不用 膳とあけて飯を申す也  
何れの時も菓子と申す也

右へ通すて其日と又日あり又上りあり祀也

故市村氏七兵衛幼名清吉神主 渭中書之

顯孝市村氏七兵衛府君神主 七月廿八日粉面申す也 孝子市村孫三郎申す也

弥八郎室幼名槌神主

顯妣弥八郎室府君 七月廿八日粉面申す也 孝子虎孫奉祀

洋一申す かつせうといふもくし中男はたのひとたの  
ものごかしす女はたのひとたのひの上あすいまんとて死命  
わしとかくし中男はたのひとたのひの上あすいまんとて死命  
こりり申すいふ申す 凡そ女はたのひとたのひの上あすいまんとて死命



もつゝの如く取らば 男神と名をよむ者には 神  
名をよむは 命を 知名には 命を 年の名を 書神と 仕こ  
極く 死人の 知名に 或は 極く 知名と 可なる  
孝子と 子也 孝子と 孫子と 祀して 不叶 孝孫  
奉祀と 書付 孝子と 孝子奉祀と 書

右 杉年 彰を 知名 中 尚 育 命 出 仕 社  
信 中 尚 月 廿 日 又 作 あり 文 あり

中 波 さん

権現 標 御 意 神 儒 佛 法 律 刑 加 刑 也 律 乃  
西 清 淨 如 也 律 乃 誠 仁 愛 如 也  
も 佛 乃 欲 我 思 守 意 想 行 三 教 也

わいなる 般教 あり 善 悪 不可 有 人 時 神 道  
儒 乃 表 徴 乃 善 悪 之 可 知 佛 法 乃 盛 衰 乃  
律 破 戒 之 云 乃 各 執 亦 夫 夫 善 行 乃 不 可  
な 律 破 戒 乃 何 法 施 乃 律 乃 生 じ 目  
た 乃 湯 乃 佛 乃 是 人 無 乃 教 也 自 乃 後 乃  
邪 法 乃 説 乃 人 心 乃 凡 俗 乃 不可 乱 吉 文

何 乃 傳 誤 乃 因 中 佛 乃 及 速 交 乃 因 中 任 者 乃  
皆 國 主 人 乃 打 兵 乃 何 者 乃 律 乃 命 乃 無 乃  
者 乃 今 乃 教 乃 乃 我 過 乃 乃 不可  
憎 今 乃 佛 乃 乃 権 現 標 乃 乃 乃 乃







國中山林荒れ木影不日由こる愛なる町人百姓根  
作事すかたは堂寺とてさるを破換せしむゆき  
行理とがたてしやうすんきん

神儒の弁有者各別しぬきよの根寺とて  
今とてと抱き坊主養生して御舟とてと暮ら  
有之いふとき一木あつてもと者と物まなぐ可也  
神儒とて者も誠と先とてとてとてとてとてと  
今とてと抱き坊主養生して御舟とてと暮ら  
人死し魂氣木か天有魄躰土降す理也常なる  
速は朽たしがはるる也孝子之情親の躰  
俄と土通分思す是とてとてとてとてとてと

中分限有者厨計焼塩と派とてと及よの  
鮫田作菓子の上加ても可也あふれ膳其家  
朝夕用お念と入る或は親の生てとたたふ  
可振舞とてとてとて可と表別と親忠とて  
あひますとてとてとてとてとてとてとて  
なり事とてとてとてとてとてとてとてと  
時直信と可知者也 寛文六朔八月廿三日

一後前是山たき

中代より時寛文六年の事とてとてとてとてと  
あつてとてとてとてとてとてとてとてと















長崎守のりや家来傳者あり東より西に  
討候

黒大野抄 二万 又長弁極馬 三反

又長大海賣 二反 又長大一歳きき 三反

系山丸志重馬二反 上白少令中 二反

又長大きき一反

右何故に長太老我大へ遊故とわけあ役、お各

唐菜 吸お 盃 肴 酒 ちり

くまたまんちりやせん 大たうらん 大たうらん 唐菜

け給仕人読士し先若し中分濃はるに討角指取  
とくへ年依 大遊初少遊初足らたし少遊二言中給候

大役人へ唐人名筆ありあはらかきし中書・徳人きい

扱一擧西物仕大し細工尺事

懐中時計 細工尺事ぬき時とあやみ

筆 細工の 杖細工の 尚 細工の

之痛子日 下紙日

大列座お付 上事あり力衰付と下り

本村信吉人

志村久治郎

阿藪泥人三人 大遊初少人 少遊初を人











傳九郎

三倫

田山系

傳九郎 全七

自北極聖劫部

傳九郎 全七

柏崎 新系

傳九郎 全七

張良仁傳

傳九郎 全七

放占 仁系

傳九郎 全七

海士 志系

傳九郎 全七

乱 海系

傳九郎 全七

以上十二卷

小説有獨吟

洪谷志文

御雜始

羽衣

大御 傳九郎

未女

傳九郎

傳九郎

次 御雜始

賀茂 志系

傳九郎 全七

忠友 志系

傳九郎 全七

三郎

井文 仁系

傳九郎 全七

舟書 志系

傳九郎 全七

三井 志系

傳九郎 全七

野中 志系

傳九郎 全七

先 志系

傳九郎 全七

耶那 志系

傳九郎 全七

安宅 志系

傳九郎 全七

富 志系

傳九郎 全七

秋言 志系

傳九郎 全七

以上十二卷

傳九郎 全七

一筆の自傳文

洗心園之東別有隙壤經營時成惟奇絕之迹也  
因築一字為慈息之所名之曰養浩之庵謹承  
嚴命作之銘 銘曰



蕭然茅屋 八荒洞通 品物有扶 壯觀無窮  
寢運人力 遂恨天功 水道滿湘 山分崆峒  
園田紫紆 花木懋蔚 雲出松洞 月懸薰風  
南溟鵬拳 北城鸞翔 草廬孔明 獨樂溫公  
釣玄心澹 養素體充 浩々復嘯 清也夏雄

貞享四年丁卯秋八月仲浣 詞臣並河子顯如也

一忠誠吟

堀田筑前守

月露自能知水清濁 君明自辨臣賢愚  
忠心盡已道惟一 生質受天分各殊  
懷玉褐衣何不顯 照形寶鏡固難誣  
主誠無我奉公志 要天肌膚脱却襦

一宣士月廿九日... 江... 堀田筑前守... 忠誠無我奉公志... 要天肌膚脱却襦... 照形寶鏡固難誣... 生質受天分各殊... 君明自辨臣賢愚... 月露自能知水清濁































那言以元 吉方場字あり 但上給老陸の形陸地より  
陸地人百あり今余

弓大為 小言我於依仲あり

但言其地外 是所其人より路止 七換以人給老

陸地形

陸地大為 小倉江岸あり 但給老陸の形

陸地廿二段あり 是所其人より路止 七換以人

と揚以 恒川十段あり 但老のり

白紙片 釋皮陸地ありきたら 〇〇の形陸地あり

醫者元 山人 如給老上下 七換以人

七換以人 東也何と云ふ陸地あり 七換以人

陸地八段あり

七換以人

陸地あり 山人 如給老上下 七換以人

〇代 教言固あり 安言あり 七換以人

如言 山人 如給老上下 七換以人

同日抄あり

米七換以人 味言あり 七換以人 陸地あり

沖成 あり 七換以人 陸地あり 七換以人

陸地あり 陸地あり 但言あり

同日抄あり 東言あり 押言あり 七換以人

山人 捕別 筆言あり 七換以人

何給老



あまの 本川村の人 高瀬のあまの七十九人

日 大井本の人 大井の

日 川原村の人 大井の

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

信濃のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人

大井のあまの七十九人 高瀬のあまの七十九人



東江の事命たぬ人足... 大進中... 山部... 中...

一寛文十一年亥七月琉球國王代替身來朝

金武王子 上官 相本親雲上

稻福 津波古 前田 宇良

川頭 金城 平密 伊計 新川

保宋茂

右親雲上者日本侍從官當也

小性 大城里子 思次郎 松兼 大郎兼

真三郎

此外樂人役者并下官都合七十六人也

琉球國王使者 金武王子

中山王進物

御大刀馬代銀五拾枚 青貝中央卓 二面

難朱卓 二面 青貝飯籠 二

綾芭蕉布 三十端 薄芭蕉布 三十端

大平布 百疋 久米綿 百把

泡盛酒 五壺

金武王子自分進物

官香 十包 香餅香 八箱 練芭蕉布 十端



綾芭蕉布 十端 池盛酒 二尊

一使价金武來貢芳簡披閱面詰惟同柳去  
年自薩列大守克之就申述琉球國傳封之  
儀為安堵之賀儀被獻進土宜件々使者捧  
之登營如教披露之奉備  
台覽之處使者被召出而奉拜御前御氣  
色殊宜幸甚々々可被安遠懷猶示諭使者  
畢不宣

寬文十一年八月九日

從四品侍從兼源朝臣內膳正重矩  
從四品侍從兼源朝臣但馬守敷直  
從四品侍從兼源朝臣大和守廣之  
從四品侍從兼越智朝臣美濃守正則

回報

中山王 館前

一古錢鈔拔書

虞錢 夏錢 商錢 周錢 景王錢 齊錢 晉錢  
楚錢 趙錢 秦錢 秦半兩錢 漢英錢 八銖錢  
四銖錢 三銖錢 半兩錢 五銖錢 鐘宮赤側錢



後漢五銖錢 四出文錢 魏五銖錢 蜀直百錢  
直百五錢 傅形五銖錢 吳大泉五百錢 大泉當十錢  
宋元銖錢 當兩大錢 孝建四銖錢 二銖錢  
景和錢 鸞眼錢 梁五銖錢 公武女錢 五銖鐵錢  
大吉鐵錢 大道鐵錢 大富鐵錢 當十錢  
四柱錢 陳五銖錢 大貨六錢 五銖錢 後魏大布錢  
永安五銖錢 西魏五銖錢 東魏永安五銖錢  
北齊常平五銖錢 後周布泉錢 大布錢  
永通萬國錢 隨白錢 唐開元錢 乾封錢  
乾元十當錢 重輪錢 小乾元錢 大曆錢  
開元大錢 建中錢 新開元錢 咸通錢

後唐天成錢 晉天福錢 漢漢通錢 周通錢  
項梁大錢 吳王濞半兩錢 鄧通半兩錢  
王莽大錢 小錢 貨泉錢 公孫述鐵錢  
董卓小錢 五銖錢 沈充小錢 張軌五銖錢  
開元鐵錢 唐國錢 大唐錢 光天錢  
王建永平錢 通正錢 天漢錢 王行乾德錢  
咸康錢 鈔錢 孟相廣故錢 大策錢  
劉龍共乾亨錢 女錢 馬斂封錢 開元鐵錢  
王延義永隆錢 錢做錢 王審知鉛 三字錢  
年代不知  
平當五銖錢 大泉四出錢 大泉五銖錢



九古五銖錢 大元貨泉錢 通行貨銖錢  
兩銖錢 續銖錢 兩柱錢 女錢 雉錢  
對文錢 傳形半兩錢 太平四錢 兩蓋錢  
允曲文錢 永光錢 五金五銖錢 大朝錢  
天領錢 萬歲錢 大興錢 古錢 天感錢  
大興錢 子錢 三字錢 黃河錢 天常錢  
寶錢 咸陽錢 五錢 穗錢 蟻鼻錢  
安是國錢 大忌氏國錢 刺賓國錢  
烏山離國錢 拔行國錢 條支國錢 拂菻國錢  
大食國錢 固揮國大壽錢 日本國和同錢  
神功錢 萬年錢 隆平錢 乾文錢

屋貳國梵書錢 疎勒國五銖錢 龜茲國五銖錢  
吐蕃國胡字錢 倭國延喜錢 梵字錢  
契丹國天寶錢 志曆錢 重熙錢 清寧錢  
大康錢 大安錢 壽昌錢 乾統錢  
天慶錢 千秋錢 高麗國海東錢 三韓錢  
東國錢 闍婆國梵書錢 交趾國黎字錢  
大秦國錢 三佛齊國錢 佛子溫國錢  
東沃沮國錢 新羅國錢 高昌國錢  
波斯國錢 女國錢 大月氏國錢 小月氏國錢  
中天竺國錢 十國錢 投和國錢 阿耆國錢  
屈支國錢 覩貨邏國錢 梵行那國錢



迦早誠國錢 健駝邏國錢 那揭羅昌國錢  
 寶羅代悉區國錢 羯君鞠國錢 鉢邏耶加國錢  
 婆羅痕斯國錢 尼波羅國錢 摩揭陀國錢  
 伊爛奴牛鉢代多國錢 憍薩羅國錢 摩安羅國錢  
 乾陀越國錢 托薄國錢 唐居國錢 未祿國錢  
 斬渠國錢 三童國錢 阿鈞羌國錢  
 舍衛國錢 層檀國錢 裸人國錢  
 碎葉國錢 驃國錢 巴氏錢  
 倓錢 賓錢 沙列玉錢 臺主衣產錢  
 羅紋錢 翅紋錢 犖錢 斬轅錢  
 栢文錢 日月錢 共文錢 雙五錢

雙十錢 星月錢 兀五錢 八星錢  
 鯨文錢 虎文錢 明月錢 兀神錢  
 万国錢 龍文錢 三雀錢 龜背錢  
 水波紋錢 雙星 玄武錢 千秋錢  
 龍鳳重輪錢 雙風錢 雙魚錢  
 四車錢 草面龍鳳錢 永安五男錢 七夕錢  
 福慶錢 措帳錢 男錢 壁錢 十金錢  
 豐樂錢 君宜侯矣王錢 長年錢 富錢  
 五男二女錢 天下太平錢

孔方

魯褒錢神論曰為世神寶親愛如兄字曰孔方



矢之則貪得之則富昌無翼而飛無足而走解  
嚴毅之顏開難發之錢多者處先少者居  
後錢所祐吉無不利何心讀書然後富貴昔  
呂公悅於空版漢高克之於齋二文君解布  
裳而被錦綉相女葉高之蓋而解憤鼻官尊  
名顯背錢所致無德而尊無勢而熱排金門而  
入紫閣危可使殺諺曰錢無耳可使鬼凡今之  
人唯錢而已

延寶三乙卯年與之年數當年迄筭之  
本草綱目第八卷 拔書

古文泉 華

泉

孔方兄

上清童 目網

晉鼓

時珍曰

管子言

禹以歷山之金鑄幣以救人因此錢之始也至  
周大公立九府泉法泉體圓含方輕重以銖  
周流四方有泉之象故曰泉後轉為錢魯褒錢  
神論云為世神寶親愛如兄字曰孔子又昔有  
錢自童子蚘血塗子母錢見蟲部

集解

頌曰凡鑄銅之物多和以錫考工記云攻  
金之工金有六劑是也藥用古文錢銅弩牙之  
類皆有錫故其用近之



[宗夔曰] 古錢其焦赤有毒能腐壞肉非特為有錫  
 王時大泉五十及寶貨秦 半兩漢英錢大小  
 五銖美大泉五百大錢當子宋四銖二銖及梁羅  
 北齊常平五銖之類方可用 [時珍曰] 古文錢但  
 得五百年之外者即可用而唐高祖所鑄  
 [開元通寶] 得輕重大小之中尤為古今所重其母  
 氏錢神論曰黃金為父白銀為母鈔為長男  
 錫為過婦其性堅剛值水終始體圓應天孔方  
 效地乃鑄錢之法也三伏鑄錢其汁不清俗爐東  
 蓋火剋金也唐人端午於江心鑄鏡此意也  
 [附方] 舊新 二十一 時氣欲死 大錢百文

水一斗者八升入麝香末三分稍飲至盡或吐下  
 愈時後方

心腸煩滿比輪錢二十枚水五升煮

三升分三服時後方

急心氣痛 古文錢 一筒步碎 大核桃 三筒同碎

熱入醋一盃沖服

經驗方

霍亂轉筋 青錢四十九枚末末瓜兩烏梅炒

五枚水二盃煎分溫服

一元錄之始括列者德漢之清中外通以七矩者更上世所



於常中と云々之し及又揚と後田道即切後能  
赤穂北の上家新絶と好也其末之石内能物志は  
合之人と扱去良上并女と重討致の事追其に我  
片傳赤穂記今石記採未見と云々之し以流布世し  
書付して古及の中より心せしん其後と申す

去年三月十日傳奉出御おとせ御出此走と云  
お侍殿後村内道へと吉良上中へとあるに  
此只傳内道へと打魚と云々の上中へと云け幸  
也侍殿中へと云けおけり利の事其内道へ  
彼と切後也 此付上中へと云出れ 此付  
婦男と上取評面へと事子と云一 此男と云

と云定之 上と上中へと一 此中石内道  
彼一 赤穂と有月の上取評面へと云先  
二 赤穂評面中へと云後村内道へと云出れ  
中中へと云人余連判致と云月かて  
町人云と云人云と云と云と云と云と云  
此事と云月と云と云と云と云と云と云  
此高村世と云月と云と云と云と云と云  
昔は評面古法と云と云と云と云と云と云  
是危好仕と云中取成と云と云と云と云と云  
人面と云と云と云と云と云と云と云と云  
此石評面今月と云と云と云と云と云と云











内通及中河新  
細川中吉久 中平流石あり 主河平流あり  
水牛流あり 中平流あり  
水牛流あり 中平流あり  
水牛流あり 中平流あり  
水牛流あり 中平流あり

一 中平流あり 中平流あり 中平流あり

一 中平流あり



一寛延元年 未申月廿六日 此地を度付渡存  
七ヶ村を討つた

未申月廿六日 東九の時に越後國に田村系  
或は古備前城下を越後守中司の七子  
村能入の末子出立村城内に控え人数又  
少人あると津波の押流の中は田村  
還命し 少達を捕り 方比を度付し 田村  
人死にせしむる 方村おとし 田村守  
方家へたし 田村守を捕り 人々を  
討つた 江川 長谷 石川  
石之 のぬ 大石 岩津 津波

お揚り宿もきし 田村系 海河におし 田村  
越前加列の田村系 田村系 田村系  
田村系 田村系 田村系 田村系  
田村系 田村系 田村系 田村系

一寛延四未申月廿六日 田村系 越後守  
田村系 田村系 田村系

田村系 田村系 田村系 田村系  
田村系 田村系 田村系 田村系

一田村系 田村系 田村系  
一田村系 田村系 田村系



一切事及七局之拾三株決

一曰八株大破

一足輝也之株決

一傳并足輝高時局為之... 所定有

新金決

一家中死人之起人曰男十八人

一家中死方之怪我多之決

一所家二子九有或起新 曰此の言九子之新決  
二有廿之新決

一所方七子百九平六本 曰一四中六之新決  
百九平六之新決

一所方死人数九平八人 曰田力三十八人  
女百七十八人

一宿役馬式之死

一曰怪我之定

一所方南堂酒池也之水也惡毒破換其新

一此處之言所也大事一之新

但三所一之新行例也一之新也

十新一之新也

一神社之新也其決

一寺院之拾九寺 曰三十八寺寺院并坊内連家  
七株決 三十七寺也

一寺家或拾七新 曰十一新決  
十新也

一修造乃八新決



- 一 寺社僧侶死人三拾七人 内男二十二人 女十四人
- 一 竹中山扇川矢田百七拾三ヶ所
- 一 林三ヶ所
- 一 用水江堰堤川筋破損百七拾八ヶ所
- 一 右水難多損出村八ヶ村

外：意川町も破損一ヶ所

- 一 山中津家武十九拾九軒 但壊失七軒
- 一 中津家三ヶ百六拾九軒
- 一 左中死人百八人 内男二百四十二人 女百三十八人
- 一 田舎死之室一ヶ所 死者百七拾八人

- 一 死馬八拾六疋
- 一 田中痛馬百廿疋
- 一 死牛拾五疋
- 一 田寺百ヶ寺 内田寺三ヶ寺 田寺七ヶ寺
- 一 田秋田村百ヶ所 内田村十ヶ所
- 一 田寺村百ヶ所 内田村九ヶ所
- 一 田田屋百ヶ軒 内田村廿七ヶ軒 八ヶ軒
- 一 田田屋百ヶ軒 内田村二ヶ軒
- 一 田田屋百ヶ軒 内田村二ヶ軒
- 一 田田屋百ヶ軒 内田村二ヶ軒



- 一 橋本新田村
  - 一 高松藩之村
  - 一 津守乃藤崎村
  - 一 高代津江村
  - 一 高代一分田
  - 一 田畑
- 但此九村、内長濱乃川出守里、  
 已梅水田乃、与守道乃山崎村、  
 高代村、山下、お、村、  
 一 田畑一分田、九方、

- 一 大津川用水
  - 一 増清海池
  - 一 高代川
  - 一 神崎
  - 一 田
  - 一 塩濱
- 津守乃藤崎村  
 九方百、  
 死人  
 八百之、



死牛馬

ノ九拾九疋 年々其数も減る

右ノ之邊に山ありて其ノ麓に農田ありて其ノ中田畑  
苗代換山崩り水堰道橋損壞并城中信託所所在  
法家死人あり毎々其ノ故に城門破損亦多し其ノ  
別紙并身之類に田畑換てる事ありて其ノ收地ノ邊に  
了りて大ノ所ニ至る事あり

六日

名

和主前越境を以て田を以て其ノ邊に別地を展身  
城門破損後ノ事也

一廿九日

本城門破損後其ノ損之破れ甚大にして裂れ三重  
櫓破損指方所あり破損大座房并上階ノ方  
衰れ甚大にして破れ甚大にして裂れ古所所  
主園前之也其ノ邊に地を裂れ其ノ下向破損傳書前  
之破損其ノ地大裂れ其ノ下向破損其ノ下向破損其ノ  
一殿破損并日不令有地其ノ下向破損其ノ下向破損其ノ  
裂れ甚大にして破れ甚大にして裂れ其ノ下向破損其ノ  
其ノ下向破損其ノ下向破損其ノ下向破損其ノ下向破損  
二九日併不例



一二九〇

武具古形一有之被信 華屋津中内之橋也  
之被舍邊門之被机門之被乃筋地之裂柳  
門之被也松古之裂

一二九一

所里本形一有之被日之被之所津東仕切門  
古之被之切裂乃筋地裂信古之被之被津比之  
之裂南門之被日門之被之被津東仕切門  
南門之被之裂信津比之被机門之被裂

一二九二

古之被門例古之被併例古之被日之被揚卷之  
比之裂孰單郭比志裂日之被合縫之古大  
長包并信書不其津之入之被信比大裂

一三〇〇

海邊不道家之被日也之被拾之被向古也  
津之被一統古之被市橋之被古之被津古之被  
之裂城門之被古之被

古之被之被古之被古之被古之被

一三〇一

古之被

別紙と所存中々之被比表分机人古之被



救の事申す所は御死人多しと云はれし所也

あり 名

和歌山申松古太の田村の村に江守の如也

てりとのせ別地屋身は古より所振る人

一法家松八郎

一法家松九郎

一今孫一と所は

一可水に并堰地土古破る所は色に名也

之れ武所

一苗代松尾村一と云ふ方にて苗代松史の村也

村に少くは苗代史也

一橋一と所は

一古一と所は

六月 名

別紙に申す所は長瀬村なる川村史生村

史生村に小園史なる中里郷なる山崎史也

乃藤井村に山下史なる史生村史也

史生村に史生村史なる史生村史也

あり 名

史生村に史生村史なる史生村史也











